

芦屋市就学前施設 保育の質の評価

評価はA,B,C,Dの4段階で表します。「A:はい」「D:いいえ」だけでなく、答えに迷った設問に対して「B:どちらかといえはい」「C:どちらかといえいいえ」と答えられるようにしています。B,Cと答えた場合について、どのような改善が考えられるか記入して今後の保育に生かしてください。

A:はい B:どちらかといえはい C:どちらかといえいいえ D:いいえ

I 全職員を対象とした自己評価

1 職員に求められる資質

- ・自分や周りの人が気持ちよく働けるように自分自身が心がけていることや行ないについて振り返ります。

NO	内 容	A	B	C	D	未回答
1	勤務の条件、内容について把握している。	20	2			
2	決められた勤務時間を守っている。	22				
3	職員間や子ども、保護者、地域の方に笑顔で挨拶している。	22				
4	身だしなみに気を付けている。	21	1			
5	日頃から自分の健康管理に気を付けている。	21	1			
6	先輩や上司に報告、連絡、相談ができる。	22				
7	上司や同僚からの感想や意見、アドバイスを前向きにとらえることができる。	22				
8	職員間でコミュニケーションを円滑にしている。	19	3			
9	自分の仕事に誇りをもち、勤めている。	22				
10	日頃の勤務内容を振り返り、自己評価し、質の向上に努めている。	18	4			
11	園の保育内容などについての自己評価の結果を、公表するように努めなければならないことを知っている。	19	3			

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえはい」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・8:努めているが元々人とコミュニケーションを取ることが下手だと感じている。他保育士に自ら積極的に話しかけることができていないを感じる。今後もその点を改善していく。新しい環境の中でも、自分も他の職員も気持ちよく働けるようもっと積極的にコミュニケーションを取り、信頼関係を築けるよう努めたい。
・10:保育をクラスの中心となって行っていない場合に十分振り返ることをできていない。自分が主でない場合にも振り返りをしていく。
・11:自己評価を公表するとは知らなかった。上記のことについて知っておく。
・内容について曖昧になっていることがあるため。理解を深める時間を設ける。日々の保育をじっくりと自己評価する時間を自主的に設ける。

* 全ての職員が職務に責任をもち、職員間の共通理解を深めることができることが保育の質の向上を高めていくことに繋がります。

2 安全管理

・いざという時に、自分で判断できるように日頃からの危機管理意識について確認します。
また、保育の現場は大切な子ども達の命を預かる場であることについて振り返ります。

NO	内 容	A	B	C	D	未回答
12	危機管理マニュアルの内容を知っている。 (消防計画 防犯計画 アレルギー対応 感染症マニュアルなど)	10	11			1
13	事故報告やヒヤリハット事例を職員間で共有し、改善に繋げている。	17	4			1
14	遊具やおもちゃ等の安全点検を定期的に行っている。不具合があればすぐに職員間で共有し、改善に繋げている。	20	2			
15	感染症について把握し、発症時には、保護者に伝達したり、施設内の衛生管理に努め、拡大防止に努めている。	22				
16	児童を観察し、虐待の事実や疑いがあれば、速やかな対応ができるように組織されている。	21	1			
17	不審者が園内に侵入してきた際に、どのように対応すればよいか理解している。	13	8			1
18	災害時の対応について、自分の役割が分かっている。	17	4			1
19	災害時の避難場所、備蓄品などについて把握している。	15	5	1		1
20	消火器のある場所、使い方を知っている。水消火器などを使って定期的に訓練をしている。	17	3		1	1
21	いろいろな災害時を想定した訓練を行い、災害時の園から避難場所への避難経路を把握している。(地震による停電、ハザードマップを活用した避難経路の確認等)	17	4			1
22	災害時の通報の仕方を知っている。訓練している。	12	4	4	2	1
23	過去にその地域で起こった災害の種類や程度、状態を知っている。	7	3	3	8	1

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・12: マニュアルを再度確認し、十分に把握する。
・13: ヒヤリハット事例の記載はしているが、共有や改善策の徹底が不十分だと感じる。日々のヒヤリハット事例を報告できていない時があった。些細なことでもその都度報告していく。
・14: 安全点検の細かい基準の共有や修理が必要な物への対応がすぐにできていないため。
・17: マニュアルの理解はしているが、その内容では不十分だと感じる部分があるため。不審者が侵入した際、実際どのような動きになるか予想しきれていないところがある。
・20: 消火器の場所を再度確認する。
・21: 避難経路を改めて確認する。
・22: 保育士が通報訓練を行っていないため、通報する訓練もローテーションで回せばよいと思う。
・17,21,22: 過去の避難訓練の立案を見て、流れは自己の中で理解はしているが実際に起きた時、自信を持って行動できるかは不安である。少しでも不安などころは他の職員に聞いたり、今後の避難訓練を通して知り、災害時にも責任を持ち、対応できるようにしていく。
・23: おおまかな情報しか知らないため、振り返る機会があれば良いと思う。
・職員自身の意識を高めるために、定期的な園内研修やわかりやすい情報公開が必要だと感じます。
・訓練や内容の把握に努めているが完璧に理解し行動できるか不安がある。
・各内容について全て把握しきれていないため。園内にある資料や過去資料等を読む機会を設ける。

II 保育者を対象とした自己評価

1 教育・保育の基本を振り返る

1-1教育・保育の基本

・保育所、認定こども園に関する法令の第1章総則に示されている教育・保育の基本を理解しているかについて振り返ります。

NO	内 容	A	B	C	D	未回答
24	勤務している施設に合わせて保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領を読んだことがある。		3	3		2
25	乳幼児期の教育及び保育は、人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解している。	20				2
26	乳幼児期の教育及び保育で、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われることを理解している。	20				2
27	「全体的な計画」は、園の保育方針や目標、子どもの発達過程を踏まえ、保育の内容が組織的・計画的に構成され、園生活の全体を通して、総合的に展開されるよう作成されている。	20				2
28	保育の理念及び目標と保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の関係を理解し、全体的な計画に基づき指導計画を立てている。	20				2
29	1年に1回以上、「全体的な計画」を見直すための会議を開いている。	13	3	1	2	3

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・24:3~4年程読んでいないので早急に読むことで改善に努めたい。施設の保育方針を日頃考え保育できるよう努めており、それに沿って保育指針を改めて読むことで、より良い保育に繋がると思うので読み直していく。
・28,29:管理職ではないので計画を立てたり、会議に参加することはないが、園として見直された計画に従い、指導案等を考えている。
・29:年度末にねらいや内容を各クラスで見直してもよいと思う。
・クラス担任間では話し合ったが職員全員では花最愛を行えていたため。クラスで話し合い、各クラス代表1名が集まって会議を行えるようにする。

* 保育所保育指針とは、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第35条に基づき、保育所における保育の内容に関する事項とそれに関連する運営に関する事項を定めるもの。(厚生労働省告示)

* 幼保連携型認定こども園教育・保育要領とは、認定こども園法第10条に基づき、幼保連携型認定こども園の教育課程とその他の教育および保育の内容に関する事項を定めたもの。(内閣府・文部科学省・厚生労働省の3省告示)

* 幼稚園教育要領とは、学校教育法第25条および学校教育法施行規則第38条に基づき、幼稚園の教育課程とその他の保育内容に関する基準を定めたもの。(文部科学省告示)

1-2養護に関する基本的事項

・保育における養護について理解し、子どもが安心して過ごせる生活の場をつくることができているかについて振り返ります。

NO	内 容	A	B	C	D	未回答
30	一人一人の子どもの平常の健康状態や保育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる時は、速やかに適切に対応している。	19	1			2
31	家庭との連携を密にし、嘱託医との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努めている。	20				2
32	清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしている。	20				2
33	家庭と協力しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにしている。	19	1			2
34	子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにしている。	20				2
35	食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助している。	20				2
36	一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉かけを行っている。	18	2			2
37	一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いている。	18	2			2
38	保育者等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかけている。	17	2			3
39	一人一人の子どもの生活のリズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにしている。	20				2
40	0歳(入園)から小学校入学までの発達の連続性を理解して、保育している。	16	4			2
41	子どもとの温かなやり取りやスキンシップを、常に心がけている。	18	2			2
42	子どもが不安になった時にいつでも受け止められるよう、一人一人視野に入れている。	18	2			2
43	子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行っている。	19	1			2
44	「早くしましよう」など、せかす言葉ができるだけ使わないで、一人一人に合わせた対応を心がけている。	14	6			2
45	「だめ」「いけません」など、制止する言葉を必要に用いないようにしている。	13	7			2

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・30:適切に対応できていない時もあるように思われるため、状況に応じた適切な対応を学ぶ。
・36:一人一人の姿の背景にあることを把握できていない時がある。常に背景にあることを考え、理解していく。
・37:現在のクラスで未だ継続的な信頼関係を築けていない子どもがいる為、積極的に子どもと関わり、気持ちを受容、共感していく。
・38:自発性を促す言葉ができないことがある。子どもの自主性を大切にしていく。
・40:発達段階は一人一人異なることを意識して見ていく。乳児保育の経験が浅く、理解していないことも多いため。乳児保育について学ぶ。
・42:クラス全体に意識を向け、一人一人の様子からきもちを読み取っていく。
・44, 45:声掛けをしていることがある。注意していく。
・45:制止する言葉を必要に言わないように心掛けているが、言うことも多いため。子どもの気持ちに寄り添い、肯定的な表現ができるようにより心掛けていく。

1-3全体的な計画、指導計画作成と評価

・全体的な計画に基づいて各クラスの指導計画を作成しているのか、自分の保育について評価することができているのかについて振り返ります。

NO	内 容	A	B	C	D	未回答
46	「全体的な計画」は、園の保育方針や目標、子どもの発達過程を踏まえ、保育の内容が組織的・計画的に構成され、園生活の全体を通して、総合的に展開されるよう作成されている。	19	1			2
47	指導計画は、「全体的な計画」などに基づいて作成している。	19	1			2
48	指導計画や記録には、いつも養護面の配慮が記載されている。	20				2
49	指導計画に基づいて、環境を構成している。	20				2
50	日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	19	1			2
51	自分の保育について反省・評価し、次の指導計画の作成に生かしている。	19	1			2
52	入園時期には、家庭との連携の大切さに配慮して指導計画を作成している。	20				2
53	小学校教育との接続(連携)のために、どのような配慮をしているか説明できる。	12	3	5	2	2

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
 ・53:現職場での幼稚園クラスの保育を見たことがなく、保育の連続性について小学校就学に向けての取り組みも十分理解できていない。幼稚園クラスの担任保育士の保育を見て学んでいきたい。上記のことについて十分に理解し、説明できるようにしておく。

* 指導計画は、全体的な計画に基づいて保育を実践する際のより具体的な方向性を示すものであり、実際の子どもの姿に基づいて、ある時期における保育のねらいと内容・環境・そこで予想される子どもの活動や、それに応じた保育士等の援助・配慮すべき事項・家庭との連携等を考え、作成するものです。

1-4インクルーシブ教育・保育

・一人一人の人格を尊重し、適切な配慮や生活を営んでいるかについて振り返ります。

NO	内 容	A	B	C	D	未回答
54	支援を要する児童について、園全体的に定期的に話し合う機会をもっている。	17	2			3
55	子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立てている。	20				2
56	一人一人の子どもが、互いのよさや違いを認め合いながら共に生活できるように配慮をしている。	20				2
57	支援を要する児童等(障がいのある児童等)に関する研修に、自ら進んで参加している。	7	4	1	8	2
58	担当している子どもの障がいについて、保育する上で必要な知識をもっている。	9	7	3	1	2
59	療育・医療機関などの専門機関から、子どもの支援について相談や助言を受けるシステムや機関を知っている。	13	4	2	1	2
60	保護者が、就学など将来の方向を決めやすいように相談に応じたり情報を提供したりしている。	11	5	3	1	2

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
 ・54:定期的に行えていない時もあるため、定期的に行えるよう連携を取り、時間を設ける。
 ・57～60:自分自身の知識の不足があり、研修日程が勤務と合いにくい現状があるため。園内全体で研修の機会を設けるなど、職員みんなで取り組めば知識や配慮が向上すると思います。
 ・57:上司から勧められた研修にしか参加できていないため、自ら意識を高めていく。
 ・58:全ての必要な知識を持ってはいないため、資料を読んだり、研修に積極的に参加する。・60:支援を要する児童の就学について、あまり理解できていないことが多いため、様々な事例を知っていく。

* 保育については、一人一人の子どもを受け止めることから始まります。共に生活できるように個に応じた環境作りや生活の仕方を構成します。配慮を要する子どもには、発達過程や障がいの状態を把握し、適切な環境の下で他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けること、また子どもの状況に応じた保育を実践する観点から、家庭や関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ります。

1-5「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

・「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解し、子どもの中で育まれるように日々の保育や指導計画の作成時に意識しているかどうか振り返ります。

NO	内 容	A	B	C	D	未回答
61	「幼児教育を行う施設において育みたい資質・能力(「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」)について説明できる。	6	4	4	6	2
62	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」について意識して保育していますか。	15	4	1		2

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・改めて資料を読み、理解できるように努める。
・説明できるまで深く知れていないと思うので、学んで説明できるようにしたい。

* 生活の全体を通して、子どもに生きる力の基礎を培うことが求められています。その為、保育の目標を踏まえ、小学校以降の子どもの発達を見通しながら保育活動を展開し、就学前施設において育みたい資質・能力を育むことが大切です。

2 保育の内容を振り返る

2-1子どもの発達

- ・子どもの成長・発達について理解し、保育環境を整えるなど、日々の保育の中で一人一人の子どもの発達を意識しているかどうか振り返ります。

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
63	子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身に付け、新たな能力を獲得していくための過程であることを理解している。	20				2
64	発達過程は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの発達として捉えている。	19	1			2
65	子どもが興味を示し、主体的に関わる環境を用意している。	19	1			2
66	自分自身が、子ども同士の関係の基礎となるように、一人一人の子どもと信頼関係を構築している。	17	3			2
67	園生活になじみにくい子どもに対しても、一人一人に応じた適切な援助及び環境構成を行っている。	16	4			2

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

- ・64:一人一人の発達や個性を十分理解し、あった関わりをする。
- ・65:書体的に関わられる環境を意識し、環境を再設定していく。
- ・66:一人一人との信頼関係を築けるよう関わっていく。
- ・67:なじみにくい子どもに対して、様々な面から配慮することを十分に行う。

2-2乳児保育に関するねらい及び内容

・一人一人の成長、発達や過程を理解しながら、乳児保育におけるねらい及び内容が日々の保育や指導計画で意識されているかを振り返ります。

*現在、乳児(0歳児)の保育を担当、または過去に担当していた方はお答え下さい。

(1)身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
68	温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すように努めている。	17				5
69	優しい言葉をかけて、おむつを替えた心地よさ、清潔感を伝えるようしている。	17				5
70	発達に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、子どもが自ら体を動かそうとする意欲が育つようにしている。	17				5
71	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、体を動かす楽しさを十分に経験できるようにしている	16	1			5
72	授乳、離乳食は、一人一人の育ちやその日の体調に合うよう工夫している。(必要に応じて嘱託医や栄養士、看護師などと連携し、子どもの健康状態などを見ながら、一人一人の状態に合わせて進める)	14	1	2		5
73	一人一人の子どもが生活リズムに合った睡眠がとれるように、静かな空間を確保している。	17				5

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・授乳や離乳食について知らないことも多いため、資料を読み、知識を得る。

(2)社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
74	一人一人の状態に応じて、スキンシップを十分にとり、子どもの甘えなどの依存欲求を満たすようにしている。	17				5
75	あやしたり、抱いたりして、子どもが人に触れられて心地よいと感じる関わりをしている。	17				5
76	体の動きや表情などから、子どもの気持ちを受け止め、子どもに応えている。	17				5
77	発声、囁語などにゆったり優しく答えたり、話しかけたりして積極的に言葉のやりとりを楽しむことができるようになっている。	17				5
78	保護者や保育者など、身近な人の存在に気付き親しみの気持ちが表せるように、声掛けをするなど工夫している。	17				5
79	子どもが自分の気持ちを表した時には、その気持ちを理解し受け止めている。	17				5

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

(3)精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
80	身の回りのものに対する興味や好奇心がもてるように、音、形、色、手触りなどを考慮した玩具、身近な生活用具や絵本などを用意している。	17				5
81	つまむ、たたく、ひっぱるなど、子どもの感覚の発達を促すような玩具を用意している。	15	2			5
82	子どもの探索意欲を満たすような活動を取り入れている。	14	3			5
83	子どもの発達に即した絵本を用意し、落ち着いた中で絵本に触れられるようにしている。	16	1			5
84	様々な色彩や形のものを子どもと一緒に見る機会を設けている。	16	1			5
85	体を動かす遊びや、リズムを伴った触れ合い遊びを十分に取り入れている。	15	2			5

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・82,85:探索活動を満たす活動や体を動かす遊び、リズム遊びを多く取り入れていく。

2-31歳以上3歳未満児の保育にかかるねらい及び内容

・一人一人の成長、発達や過程を理解しながら、1歳以上3歳未満児保育におけるねらい及び内容が、日々の保育や指導計画で意識されているかを振り返ります。

* 現在、1歳以上3歳未満児の保育を担当、または過去に担当していた方はお答え下さい。

(1)健康

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
86	安定感、安心感をもって生活できるように受容している。	18				4
87	子ども同士が一緒にいて心地よいと感じ、楽しく遊べるように遊びを開拓している。	18				4
88	生活のリズムができるよう食事や午睡、遊びと休息などに配慮している。	18				4
89	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しめるように配慮している。	18				4
90	穏やかでくつろいだ雰囲気の下、保育者や友達と一緒に食事を楽しむ経験ができるようにしている。	18				4
91	食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りの生活などは、子ども一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で、子どもが自らしようとするとする気持ちを尊重して対応している。	17	1			4
92	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付くようにしている。	18				4

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・91：一人一人が落ち着いた環境の中で自主的に生活する姿を大切にしていく。

(2)人間関係

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
93	周囲の人と共に過ごす心地よさを感じることができるように、子どもの状況をよく捉え、その思いを受け入れながら関わっている。	18				4
94	子ども一人一人が自己を十分發揮しながら、様々な場面で他の子どもとの多様な関わりが少しずつもてるようにしている。	18				4
95	一人一人の行動や思いをありのまま認め、期待をもって見守っている。	17	1			4
96	一人一人の発達の違いを考慮した上で、保育士等の考え方や気持ちを表情や言葉などで伝えている。	18				4
97	思い通りにいかないときなど、子どもの気持ちを受け止めるようにしている。	17	1			4
98	不安な気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることの大切さへの気付きに繋げている。	16	2			4
99	園生活を送る際に、直ちにきまりを伝えたり、守らせたりするのではなく、自らきまりの大切さに気付くようにしている。	13	5			4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

・98: 感情をコントロールする大切さに気付けるよう、時間をかけて待つことをしていく。

・99: 決まりの大切さに気付けるような言葉かけを心掛ける。

・子ども主体の保育を見直し、心掛ける。

・集団を優先してルールを押し付けてしまうことがある。子どもが自分で気づけるように工夫していく。

(3)環境

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
100	見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きが豊かになるように、安全で活動しやすい環境での探索活動などを促している。	17	1			4
101	玩具、絵本、遊具などに興味を持ち、それらを使った遊びを楽しめるような環境を用意している。	18				4
102	身近な生き物に気付き、親しみがもてるようにしている。	16	2			4
103	自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つようにしている。	17	1			4
104	形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付けるような環境を整えている。	17	1			4
105	地域の生活や行事に興味や関心をもつように、話をしたり散歩に行ったりしている。	18				4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

・103: 環境を整え、自分のものと人の物の区別がしやすいようにしていく。

・104: 様々なねらいから玩具や保育室の環境を整えていく。

(4) 言葉

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
106	心のこもった日常の挨拶をしている。	18				4
107	保育者などが仲立ちをして生活や遊びの中で友達との言葉のやりとりを楽しめるようにしている。	18				4
108	生活に必要な言葉に気付きやすいように丁寧に説明したり、何度も繰り返したりして言葉を聞かせている。	17	1			4
109	絵本や物語などは、子どもの発達や興味、関心に即した物を提供している。	17	1			4
110	ごっこ遊びなど楽しい雰囲気の中で、言葉のやりとりを楽しめるようにしている。	17	1			4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

・108: 常葉がわかりにくいくことや早口になってしまことがあったため、ゆっくり丁寧に伝える。

・109: 子どもの発達、興味に合わせて絵本を入れ替え用意する。

(5) 表現

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
111	水、砂、土、紙、粘土等、様々な素材に触れることができるよう環境を整えている。	16	1	1		4
112	音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを表現できる場を設けている。	17		1		4
113	生活の中で、様々な、音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりできるような環境構成をしている。	16	1		1	4
114	歌や簡単な手遊びに慣れ親しみ、口ずさんだり、歌に合わせて楽しんで体を動かすことができるようになっている。	18				4
115	子どもがイメージや感性を豊かにする経験ができるように工夫している。	15	2		1	4
116	嬉しさや誇らしさを丁寧に受け止め、思いに沿った言葉をかけながら、意識を支えている。	18				4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

・111、112: まだ保育の中に取り入れる機会は少ないので、子どもの姿や季節に合わせて環境づくりに配慮して取り入れていく。

・115: イメージを表現できる活動を取り入れていく。

・限られた環境の中で、身近な素材に触れることができるように保育を計画する。

2~4乳児・1歳以上3歳未満児の保育の実施に関する配慮事項

乳児(0歳児)・1歳以上3歳未満児の保育を実施するにあたって、以下の配慮事項が日々の保育や指導計画で意識されているかについて振り返ります。

* 現在、乳児(0歳児)・1歳以上3歳未満児の保育を担当、または過去に担当していた方はお答えください。

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
117	清潔で衛生面に十分配慮された生活や遊びの場となるよう、日々の環境を整えている。	18				4
118	常に心身の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見し、速やかな対応をしている。	18				4
119	体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行い、適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。	18				4
120	この時期に人に対する基本的な信頼感を獲得することが、生きていく基盤となることの重要性を十分に認識しながら保育している。	18				4
121	気温や天候などの状況や乳児の体調に留意しながら、外気浴や保育室外での遊びを多く取り入れている。	18				4
122	窒息、誤飲、転倒、転落、脱臼等、予想される危険や事故に対し、それぞれの職種の専門性を活かして予防のための対策や配置、確認に取り組んでいる。	17	1			4
123	探索活動ができるように、事項防止に努めながら活動しやすい環境を整えている。	18				4
124	子どもの日々の様子や保育について、保護者と密接な連携を図っている。	18				4
125	担当保育者が替わる場合には、子どもが不安にならないように、職員間で情報を共有している。	18				4

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえど」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・予想される事故について予防や対策を常に把握、確認する。

2-5 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

・一人一人の成長、発達や過程を理解しながら、3歳以上児保育におけるねらい及び内容が、日々の保育や指導計画で意識されているかを振り返ります。

(1) 健康

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
126	一人一人の子どもと関わりながら子どもがどのようにして安定感をもっていくのかを捉え、信頼関係を結ぶことに繋げている。	17	1			4
127	子どもが伸び伸びと十分に体を動かし、活動意欲を満足させる体験を積み重ねている。	18				4
128	子どもが自ら工夫して、戸外でのいろいろな遊びを楽しんだり、様々な事柄に出合い、気付いたりできる機会を提供している。	17	1			4
129	子どもが、園生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動できるよう、働きかけている。	17			1	4
130	様々な食べ物への興味・関心をもち、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにしている。	17	1			4
131	健康な生活のリズムを身に付けることができるよう、一日の保育の時間配分などに気を付けている。	17	1			4
132	家庭との連携を密にしながら、実情に応じて基本的な生活の仕方にについて指導している。	15	3			4
133	子どもが自分達で生活の場を整えながら見通しをもって行動できるように働きかけている。	17		1		4
134	自分の健康に関心を高め、病気を予防する態度を身につけるよう、機会を見つけて働きかけている。	18				4
135	災害時に子どもがとる行動について、日頃から丁寧に話をしている。	15	2		1	4
136	危険な場所を知り、安全に気を付けて遊ぶことができるよう働きかけている。	17	1			4

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

- ・132:送迎時子どものエピソードを一つ以上話すように心がけたり、信頼関係を築いていく。
- ・132:室内等の環境を整えたり、自分でしてみようと思える言葉掛けをしたりする。
- ・日頃から「災害」や「危険」について意識する。

(2)人間関係

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
137	保育者や友達と一緒に園生活を楽しみ、積極的に行動できるように援助している。	18				4
138	子どもが自分で考え、自分で行動する体験ができるような生活や遊びを心がけている。	17	1			4
139	自分でできることは自分でしようとする意欲や自分でできたという充実感を味わえるような活動を取り入れている。	18				4
140	いろいろな遊びの中で、物事を諦めずにやり遂げようとする体験ができるよう保育の工夫をしている。	18				4
141	友達と積極的に関わりながら遊び、喜びや悲しみを共感する機会を大事にしている。	18				4
142	集団生活の中で、保育者や他の子どもに認められる経験を通して、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにしている。	18				4
143	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることにも気づくように、言葉掛けをしたり、見守ったりしている。	18				4
144	友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わうことができるような機会を大切にしている。	18				4
145	友達と共に目的を見つけたり、遊びと一緒に工夫・協力して、共に達成感が味わえるよう働きかけている。	18				4
146	よいことと悪いことがあることに気付き、考えながら行動できるように援助している。	18				4
147	友達とのかかわりを深め、思いやりを育むように、働きかけている。	18				4
148	より楽しく遊ぶためには、決まりを守る必要があることを、子ども達が話し合う機会を設けている。	15	2		1	4
149	共同の遊具や用具を大切に使うことを活動を通して体験するように配慮している。	18				4
150	高齢者をはじめ、地域の人々などに親しみを持つような機会を保育に取り入れている。	11	5	1	1	4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

- ・地域の人々との交流する機会を設ける。
- ・138: つい答えを先に言ってしまうことがあるので、子ども自身で考えられるよう心掛けた保育をする。
- ・148: 4,5歳児を担任として受け持ったことがないため、機会が作れなかった。もし、受け持った際は子ども同士できまりについて話し合う場を設けたい。
- ・散歩で出会う方々へのご挨拶等で親しみを持てるようにする。

(3)環境

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
151	子どもが、自然を観察したり、触れたりするなかで、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付くよう援助している。	16	2			4
152	身近な自然事象に触れ、「どうして」「なぜ」といった疑問に対して、一緒に考えたり調べたりしている。	15	3			4
153	生活の中で様々なものに触れながら、その性質や仕組みに興味や関心がもてるよう環境を工夫している。	17	1			4
154	季節や天候により、自然や人間の生活に変化があることに気付くよう、保育を工夫している。	15	1		2	4
155	園生活のなかで、自然や身近な事象の中に関心をもつことができるように、環境を工夫している。	16	1		1	4
156	園や散歩で集めた草花や木の葉、木の実など、季節感のある素材を保育のなかで活用している。	15	2		1	4
157	身近な動植物を飼育・栽培するなかで、それらをかわいがったりいたわったりする体験を大切にしている。	13	3	1	1	4
158	日常的な子どもとのいろいろな関わりの中で、物を大切にしようとする心を育てるようにしている。	18				4
159	身近な物や遊具に興味をもって関わり、考えたり試したりして、工夫して遊ぶことができるよう援助している。	18				4
160	数量や図形などに関心をもつように、生活の中で数を数えたり形を意識したりするなど、工夫して保育している。	16	1		1	4
161	身の回りのある簡単な標識や文字に 관심をもち、その意味や役割がわかるよう配慮している。	15	2		1	4
162	国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ機会をつくっている。	11	3	1	3	4
163	国旗に接し、いろいろな国に興味・関心がもてるよう工夫している。	6	1	7	4	4

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

・162: 様々な文化や伝統を保育士も知り、保育に取り入れていく。

・子ども達の疑問に気づけるように意識していく。

・色々な国旗の載っている絵本や表を準備する。また、図鑑等で調べられるよう働きかける。

(4) 言葉

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
164	子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉かけをするよう心掛けている。	17	1			4
165	子どもが見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを、自分なりに言葉で表現しようとするよう援助している。	16	2			4
166	したこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からぬことを尋ねたりできるようにゆったりと子どもの言葉を聞き、応答している。	17	1			4
167	保育者や友達の話を、親しみや興味をもって聞くことのできる雰囲気をつくっている。	17	1			4
168	子どもがみんなの前で話す時には、相手に分かりやすく話せるように援助している。	18				4
169	友達と話し合いにより問題を解決できるように、見守ったり、助言したりするなどの適切な援助をしている。	18				4
170	「ありがとう」「ごめんなさい」「貸して」「いいよ」など、生活の中で必要な言葉を知らせ、それを理解して使うことができるよう配慮している。	18				4
171	子どもが自ら挨拶しようとするような場や雰囲気をつくっている。	18				4
172	生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付けるように生活している。	18				4
173	いろいろな体験を通して、イメージや言葉を豊かにできるよう工夫し援助している。	18				4
174	絵本や物語に親しんだり、言葉遊びをしたりして言葉が豊かになるようにしている。	18				4
175	生活や遊びのなかで、簡単な文字や記号を使って伝え合える楽しさを味わうことができるよう、心がけている。	17			1	4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

- ・165:保育士が代弁してしまうことがあったため、子ども自ら表現できるように一人一人のペースに合わせる。
- ・166:ゆったりと聞けていない時があるため、常に落ち着いて関わればよいと思う。
- ・様々な職員の子どもへの関わり方を観察する。

(5)表現

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
176	様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりして楽しむことができるよう工夫している。	17	1			4
177	美しいものや心を動かすものに触れ、イメージを豊かにできるような機会をつくっている。	13	4	1		4
178	感動したことを伝え合う機会をつくり、豊かに表現できるよう一人一人の思いを受け止めている。	14	4			4
179	感じたことや考えたことを、自由にかいたり、つくったりできる機会を設けている。	16	2			4
180	色々な素材に触れ、親しみ、イメージを豊かにもてるよう、環境を準備している。	16		1	1	4
181	好きなように歌ったり、踊ったりできるように、材料や用具を自由に取り出せる場所に置くなど工夫している。	15	3			4
182	音楽に親しみ、歌を歌い、簡単なリズム楽器を使う楽しさが味わえるように工夫している。	15	3			4
183	かいたり、つくったりすることを楽しみ、それらを飾ったり、遊びに使ったりできるように素材や用具を用意したり、援助したりしている。	17		1		4
184	自分のイメージを言葉や体の動きなどで表現したり、演じて遊んだりして楽しめる機会をつくっている。	18				4
185	子どもが生活の中で様々な表現を楽しむことができるようにしている。	17	1			4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・子ども自身で創造力を豊かにできるよう保育を工夫していく。

2-6 3歳以上児の保育の実施に関する配慮事項

3歳以上児の保育を実施するにあたって、以下の配慮事項が日々の保育や指導計画で意識されているかについて振り返ります。

* 現在、3歳以上児の保育を担当、または過去に担当していた方はお答えください。

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
186	心身の発達および活動の実態における個人差を踏まえながら、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助している。	18				4
187	子ども自らが環境に働きかけ、試行錯誤しながら自分の力で行う活動を見守りながら、適切な援助を行っている。	18				4
188	子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようしている。	16		1	1	4
189	性別などによる固定的な意識を植え付けることがないように配慮している。	18				4
190	子どもにとって小学校以降の教育が円滑に進むことができるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設けていく。	10	1		7	4
191	子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるようにしている。	18				4

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・190: 年長児を受け持ったことがないため、小学校教師とやりとりする機会が持てなかつたため、受け持つた際はぜひ意見交換を行っていただきたい。

3 健康及び安全、子育て支援について振り返る

3-1 健康及び安全

- ・子どもの心身の健康増進と健やかな生活について振り返ります。

(1) 健康支援

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
192	子どもの日々の健康状態を把握し、それを一人一人の保育に生かしている。	20				2
193	身長・体重などの定期的な計測や健康診断などの結果から、子どもの発育状況を把握し、保育に生かしたり、職員と共有したりしている。	20				2
194	疾患のある子どもに対して、園医やかかりつけ医からの指示に基づいて対応をしている。	20				2
195	包帯など応急処置用品の使用法を知っている。	11	6	1	2	2
196	学校保健安全法などの法令や様々なガイドラインを踏まえた対応について知っている。	10	1	4	5	2
197	災害時の保護者への連絡体制や引き渡しなど職員、保護者に周知することを知っている。	13	4	2	1	2
198	子どもの引継ぎ時には、記録簿と照らし合わせながら、人数や体調など確実に伝達することを知っている。	20	2			2
199	園外散歩へ行く時は、日時、人数、経路、活動内容など、職員間で共有し、すぐに連絡がとれるようにしている。	19				3

B、Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

- ・法令やガイドラインを踏まえた対応について知らないことも多いため、資料を読み、知識を得る。
- ・使用法を確実に覚えていく。
- ・救命救急講習への参加などを行う。

(2) 食育

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
200	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように配慮している。	22				
201	食べ物を残したり偏食したりするとき、叱ることがないように心がけている。	22				
202	子どもが栽培・収穫したものや調理したものを食べるなどの機会をつくるよう心がけている。	21	1			
203	自分自身が「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の気持ちをもって食事できるよう努めている。	22				
204	食物アレルギーのある子どもに対して、園医やかかりつけ医と連携して、除去食を取り入れるなどの配慮をすることを知っている。	22				

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・食物の栽培を取り入れていく。

(3)環境・衛生・安全管理

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
205	常に清潔な環境を保つことができるよう、日頃から清掃や消毒等を行っている。	21				1
206	室内の温度や湿度、換気を絶えずチェックし、適切な状態を保持することに努めている。	18	2	1		1
207	施設内外の適切な環境の維持に努めている。	21				1
208	感染症に関する知識を習得し、流行時期や疾患状態を把握している。	13	8			1
209	感染症について、対処や処理の方法について知っている。	12	8	1		1
210	園内外で災害に遭遇した時の対処法を理解している。	12	8			2

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？
・全ての感染症について、把握できていないため、資料を読んだり看護師に疑問点を聞いたりして確認し、知識を得る。
・様々な状況を考え、シミュレーション等を行う。

* 子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の維持と健やかな生活の基本であり、一人一人の子どもの健康の保持及び増進並びに安全の確保とともに、保育所全体における健康及び安全確保に努めることが重要です。

3-2 子育て支援

全ての子どもの健やかな育ちのため、家庭との連携や地域の保育ニーズに対して、保育の専門家として積極的に支援に取り組んでいるかどうかを振り返ります。

(1) 在園児の保護者における子育て支援

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
211	送迎の際に、保護者と言葉を交わしたり、連絡帳等で情報を交換したりしている。	20				2
212	生活に必要な習慣が身に付くよう、家庭との連携に努めている。	20				2
213	保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう、心がけている。	19	1			2
214	子育てについて保護者からの相談に応じ、共通理解を得るために、懇談会や個別面談などの機会を設けている。	19	1			2

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

- ・保護者との信頼関係を築くことを心掛け、安心して悩みを話せる存在となる。

(2) 地域における子育て支援

NO.	内 容	A	B	C	D	未回答
215	地域の子どもについての（園庭開放、一時預かり）保育ニーズを把握しようと努めている。	19	2		1	2
216	虐待の疑いがある情報を得た時、要保護児童対策地域協議会や家庭児童相談室などに照会、通告を行う園の体制を理解している。	12	4	2	2	2

B, Cを選んだ項目については、なぜ「どちらかといえば」なのかを考え、どうすれば「はい」になると思いますか？

- ・215: 地域とのつながりに関して私自身の理解が浅いように感じる。

- ・216: マニュアル等を読んで理解に努める。

- ・子育て支援についての体制の理解を深める。

* 保護者に対する子育て支援とは、子どもの保育に関する専門性を有する保育士が、各家庭において安定した親子関係が築かれ、保育者の養育力の向上に繋がることを目指して、保育の専門的知識・技術を背景としながら行うものです。子どもの育ちの姿とその意味を保護者に丁寧に伝え、子どもの育ちを保護者と共に喜び合うことを重視します。